【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成19年11月1日(2007.11.1)

【公開番号】特開2007-236886(P2007-236886A)
【公開日】平成19年9月20日(2007.9.20)
【年通号数】公開・登録公報2007-036
【出願番号】特願2006-102444(P2006-102444)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｂ　21/02　　(2006.01)
Ａ６３Ｂ　23/04　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｂ　21/02
Ａ６３Ｂ　23/04　　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成19年6月29日(2007.6.29)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
少なくとも足置き部材と伸縮部材とで構成されており、足置き部材には足を乗せる足置き部と伸縮部材を直接又は間接に取り付ける伸縮部材取り付け部と伸縮の運動方向を変換する方向変換部が形成されている。伸縮部材は、伸縮機能を自体が有し、且つ柔軟性を有する線状又は紐状又は帯状又は縄状又は鎖状又はその他の形状の、或る長さを有する部材で形成されており、更に伸縮部材には其の片側に足を掛ける足掛け部が形成されている。足置き部材に形成された方向変換部は使用する状態で、横又は／及び上下いずれかの斜め方向に伸長した、或る長さの面を有する部材で形成されていることを特徴とする筋肉トレーニング器。
【請求項２】
足置き部材を板状の部材で形成したことを特徴とする請求項１に記載の筋肉トレーニング器。
【請求項３】
足置き部材に足を形成したことを特徴とする請求項２に記載の筋肉トレーニング器。
【請求項４】
方向変換部を棒状部材又は板状部材で形成したことを特徴とする請求項１～３のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
【請求項５】
伸縮部材取り付け部の上側に、方向変換部を対向させて形成したことを特徴とする請求項１～４のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
【請求項６】
足置き部材に切り込み又は孔を形成して、該切り込み又は孔の縁を方向変換部としたことを特徴とする請求項１～５のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
【請求項７】
切り込み又は孔の内側に縁以外の方向変換部を形成したことを特徴とする請求項６に記載の筋肉トレーニング器。
【請求項８】

伸縮部材取り付け部と伸縮部材の間に接続部材を取り付けたことを特徴とする請求項１～７のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
【請求項９】
方向変換部に回転ローラーを取り付けたことを特徴とする請求項１～８のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
【請求項１０】
伸縮部材取り付け部から伸縮部材を着脱する手段を有することを特徴とする請求項１～９のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
【請求項１１】
伸縮部材に環状の足掛け部を形成したことを特徴とする請求項１～１０のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
【請求項１２】
伸縮部材に筒状の足掛け部を形成したことを特徴とする請求項１～１１のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
【請求項１３】
伸縮部材に袋状の足掛け部を形成したことを特徴とする請求項１～１１のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
【請求項１４】
伸縮部材に帯状の足掛け部を形成したことを特徴とする請求項１～１２のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
【請求項１５】
伸縮部材に伸縮部材とは別の部材で足掛け部を形成したことを特徴とする請求項１～１４のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
【請求項１６】
伸縮部材がゴム材で形成されていることを特徴とする請求項１～１５のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
上記課題を解決する為、本発明は次ぎの如き筋肉トレーニング器を提供する。
１、少なくとも足置き部材と伸縮部材とで構成されており、足置き部材には足を乗せる足置き部と伸縮部材を直接又は間接に取り付ける伸縮部材取り付け部と伸縮の運動方向を変換する方向変換部が形成されている。伸縮部材は、伸縮機能を自体が有し、且つ柔軟性を有する線状又は紐状又は帯状又は縄状又は鎖状又はその他の形状の、或る長さを有する部材で形成されており、更に伸縮部材には其の片側に足を掛ける足掛け部が形成されている。足置き部材に形成された方向変換部は使用する状態で、横又は／及び上下いずれかの斜め方向に伸長した、或る長さの面を有する部材で形成されていることを特徴とする筋肉トレーニング器。
２、足置き部材を板状の部材で形成したことを特徴とする上記第１項に記載の筋肉トレーニング器。
３、足置き部材に足を形成したことを特徴とする上記第２項に記載の筋肉トレーニング器。
４、方向変換部を棒状部材又は板状部材で形成したことを特徴とする上記第１～３項のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
５、伸縮部材取り付け部の上側に、方向変換部を対向させて形成したことを特徴とする上記第１～４項のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
６、足置き部材に切り込み又は孔を形成して、該切り込み又は孔の縁を方向変換部とした

ことを特徴とする上記第１～５項のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
７、切り込み又は孔の内側に縁以外の方向変換部を形成したことを特徴とする上記第６項に記載の筋肉トレーニング器。
８、伸縮部材取り付け部と伸縮部材の間に接続部材を取り付けたことを特徴とする上記第１～７項のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
９、方向変換部に回転ローラーを取り付けたことを特徴とする上記第１～８項のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
１０、伸縮部材取り付け部から伸縮部材を着脱する手段を有する上記第１～９項のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
１１、伸縮部材に環状の足掛け部を形成したことを特徴とする上記第１～１０項のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
１２、伸縮部材に筒状の足掛け部を形成したことを特徴とする上記第１～１１項のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
１３、伸縮部材に袋状の足掛け部を形成したことを特徴とする上記第１～１１項のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
１４、伸縮部材に帯状の足掛け部を形成したことを特徴とする上記第１～１２項のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
１５、伸縮部材に伸縮部材とは別の部材で足掛け部を取り付けたことを特徴とする上記第１～１４項のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
１６、伸縮部材がゴム材で形成されていることを特徴とする上記第１～１５項のいずれかに記載の筋肉トレーニング器。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
次ぎに足掛け部６に就いて説明すれば、足掛け部６は本筋肉トレーニング器を使用する際、足先に伸縮部材２を掛け易くするために伸縮部材２の片側に形成するものである。図１では伸縮部材２が全体を環状に形成され、片側を伸縮部材取り付け部４に掛けて取り付けられている。そして片側がバンド７で絞ってあり、他片側も同様にバンド７で環を絞っており、その先に環状の足掛け部６が形成されている。足掛け部６の形状には色々な実施態様がある。紐状、帯状、筒状、環状、袋状、Ｕ字径など色々であるが、この場合、指よりも足の甲部を掛けられる構造が好ましい。又、足掛け部６は図１で示す様に伸縮部材２自体で形成しても良いし、図３（ａ）で示す様に伸縮部材２に他部材を一体化させたものでも良い。又、図３（ｂ）で示す様に伸縮部材２から離して別部材で形成し、ジョイント１０で繋いでも良い。更に、このジョイント１０の部分で外せる様にし、足掛け部６を複数用意して、足掛け部６を交換できる様にすることもできる。又、図３（ｂ）の場合、図で示す様に元と先の径の寸法の異なる筒状の部材で形成すると足先を掛け易くなるので好ましい。この場合、筒の元と先の径の寸法を変えられる構造にしても良い。材質は任意である。硬質でも軟質でも良い。又、伸縮部材２の複数箇所に形成しても良い。また足掛け部６の内側に指圧用の、小さな突起を付けても良い・